

第1回 高校生SDGs選手権大会 ポスター発表 説明資料

学校名	福岡県立中間高等学校
チーム名 (メンバー名)	Eチーム 北本剛丸、君原和、國光礼央奈、小西史也、近藤大貴、高野美桜、高原蒼太、高山海都、田中昇希、中西恵望、西村柚乃
作品タイトル	「働きがい」と「平等」
関係する SDGsのゴール	10 人や国の不平等をなくそう
説明文	<p>現在、世界では様々な不平等が起きている。不平等を減らすことは、貧困や争いごとをなくすことにもつながる。今回は「所得格差」から生じる不平等に注目し、ポスターを作成した。</p> <p>まず、世界の取り組みにおいて、私たちは「ディーセント・ワーク」という考え方を取り上げた。これは「働きがいのある人間らしい仕事」を意味する。さらに権利を保障するのはもちろん十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事という意味も持つ。具体的には4つの戦略目標があり、仕事があるのを基本とした上で権利、社会保障、社会的対話を確保し、働く人々の生活の安定を図るとともに、自由・平等が保障される。この働き方を取り入れることで、短時間、週単位などライフスタイルに対応しやすくなり、従業員の満足度が向上する。また、働く人を大切にす会社というイメージが定着すれば、企業のイメージも向上する。最終的に人手不足が解消され、働く人の定着率が向上し、採用コストの削減が可能となる等、副次的効果も見逃せない。こうしたことから「ディーセントワーク」はSDGs 目標達成の鍵を握っていると言える。</p> <p>次に、日本では、働き手が少ない今、外国人労働者は貴重な存在となっている。そのため、外国人労働者の受け入れ政策が大きく見直され、労働基準法で定められた法定時間や休憩時間等が保障されている。また、日本での最低賃金を守り、契約を結んだ条件で賃金の支払いを徹底することが大切だ。これらの法律の遵守により、外国人労働者が働きやすい環境が実現していくと考える。</p>
課題、 今後の展開など	<p>肌や髪の色の違い、言葉や文化の違いをなくすことはできない。しかし、そうした違いがあるからこそ理解し合い、尊重し合う気持ちを持つことが何よりも大切だ。</p> <p>人や国の不平等をなくす上で、「所得格差」の問題は貧困問題に直結するものである。私たちが将来、社会で働くようになった際に、今回の活動内容を活かして不平等をなくす考え方を広めていきたい。</p>
参考文献等	<p>「ディーセントワークと企業経営に関する調査研究報告書（厚生労働省）」</p> <p>「ディーセントワーク」（ILO駐日事務所）</p>

(説明文は1ページ以内)